



第 23 号
発行所
近畿大学農学部緑友会
広報・編集委員会
編集委員長 川西 正子
631-8505 奈良市中町3327-204
TEL: 0742 (43) 1511
http://www.nara.kindai.ac.jp/

農学研究科の近況
大学院農学研究科長 森山達哉



新商品の販売や開発、
新しい企画への取り組みを
ご紹介ください

緑友会会長 松田克礼



緑友会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、皆様方には平素から緑友会に格別なご支援とご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。

先日、東大阪キャンパスの農学部を初めに卒業された大先輩が、奈良キャンパスの農学部を卒業された後輩の方と学生支援課へ来られました。目的は、学生のリクルート。優先的に、母校の学生を採用したい。たいへん有難いお話をもって来て頂きました。このようなお話は、緑友会の目的のひとつである「卒業された先輩方と現役学生達との交流」その具体的な一歩になると思います。また、近頃ではほんの数年前に奈良キャンパスを卒業された方が、母校で開かれる企業説明会に、その担当者として来られることも多くなり、多くの先輩方がいる。このことも、具体的な現実として、就職活動中の学生達の励み、大きな拠り所になります。そこで、緑友会の掲示板に目を向けました。

農学部創設60周年を記念して

農学部長 重岡成



緑友会の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より農学部発展のため、多大なご支援とご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。

お陰さまで近畿大学の受験者総数も5年連続日本一、農学部は約15000人となりました。

今年、農学部創設60周年（1958年・昭和33年）、奈良キャンパスに移転（1989年・平成元年）して30年を迎えました。この記念すべき年に、記念事業として、多目的ホールおよび調理実習室の建設、そして図書館の拡充整備を計画しております。そして、この4月には本学18番目の研究所として、近畿大学アグリ技術革新研究所を開設しました。産学官連携の革新的な研究や地域社会の技術発展への貢献、そして世界レベルで戦える研究の推進を計ります。さらに、奈良県との連携・なら近大農法（農の人口・就農者の支援、スポーツアカデミー（附属幼稚園・小学校、奈良病院との協力）、フォレストアカデミーなど、そして農林水産省と連携して、農業女子プロジェクトにパートナー校として参加し、さらには農業知財に関する講座を、我が国の大学で初めて開設します。



緑友会の皆様には、今まさに本学の中心学部の一つとして、躍進を続ける農学部の現状をご理解いただき、さらなるご支援を切に願います。最後になりましたが、皆様のご多幸とご健康を祈念し、挨拶とさせていただきます。

らを紹介しているポスターなどを提供頂けませんか？緑友会の掲示板を利用して、先輩方の活躍を学生達に伝えたいと思います。もちろん、リクルートも大歓迎です。ご協力、よろしくお願致します。

なお、学生時代の同級生や先輩、後輩の連絡先を知りたい、退職された先生の様子を知りたい、卒業生向けのサービスを知りたい、その様な場合には、緑友会の事務所にお問い合わせください。可能な限り対応させていただきます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

農学部緑友会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。会員の皆さまの相変わらずのご支援に対して厚く御礼申し上げます。

現在、農学研究科には博士前期課程137名、博士後期課程18名が在籍し、活発に研究活動に邁進しております。緑友会からご支援頂いております学位論文の優秀発表者を表彰する緑友会賞もすつかり定着し、大学院生達の研究活動の大きなモチベーションの一つとなっています。

さて、昨年の9月2日（土）には、「こ奈良キャンパスにおいて「近畿大学大学院サイエンスネットワーク2017・第7

近大農学部の現状

事務長 伊藤博樹



農学部緑友会会員のみなさまには、日頃から大変お世話になっております。

みなさまがご卒業された近大農学部の現状についてご報告申し上げます。平成30年度入試は正に志願者の文高理低傾向があり、農学分野は全国的な志願減となりました。また、大阪府内の私立大学が農学部開設を表明、管理栄養士養成課程においても開設ラッシュと言つても言い過ぎでない状況です。我々農学部教職員は、このような状況においても建学の精神・教育の目的を具現化し実行することによって、学びたい・学ばせたい学校、近大農学部を選んで良かった等、現在も未来もそのような思ってもらえるような大学でありたいと思うとともに、しっかりと実行していく所存です。

今年度は農林水産省との大きなプロジェクトがあります。一つは農業女子プロジェクトです。農業

た、今年の4月には「アグリ技術革新研究所」も設立され、農学部・農学研究科の研究教育環境が益々発展していくことが期待されます。

昨今、本学の農学部・農学研究科の研究成果や教育活動は新聞やマスコミでも盛んに取り上げられております。今後も、大学院生を中心とした農学研究科発のトピックスを皆さんへ届けられるように研究科一丸となつて精進してまいります。今後とも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

の担い手不足がかなり深刻ですが、農水省は、農業内外の多様な企業・団体と連携し、農業で活躍する女性の姿を様々な切り口から情報発信し、社会全体での女性農業者の存在を高め、併せて職業としての農業を選択する若手女性の増加を図ることを推し進めています。この取組みに賛同し、農業生産科学科が中心となる本年3月から本格的に始動しました。その中で感じるのは、本学部の女子学生は本心に元気で目が輝いているということです。何事にも積極的で何かやってみようという雰囲気を持っています。（もちろん男子学生も元気で...）

もう一つは農業知財に関する講義を実施する事です。この講義は、農林水産省のキャリア官僚が毎週講義を行うものです。単位認定も行います。これは、全国農学部系大学での初めての画期的な取組みです。

以上のような他大学では前例のないような取組みも積極的に行っているところですが、外部から獲得した研究資金（受託・寄附研究、科研費等の補助金）は、2017年度で158件、

平成29年度 緑友会賞

1. 博士後期課程

専攻	氏名	テーマ
緑友会賞（最優秀賞）		
バイオサイエンス専攻	北 奥 喜 仁	Structure-function relationships of lysin motifs derived from an alga, <i>Volvox carteri</i> (<i>Volvox carteri</i> 由来リ シンモチーフの構造機能相関)
緑友会賞（優 秀 賞）		
バイオサイエンス専攻	千 木 雄 太	Xist Aリピード領域のクロマチン結合能とX染色体不活性化

2. 博士前期課程

専攻	氏名	テーマ
農業生産科学専攻	本 間 鹿 波	ナス科植物におけるベゴモウイルス接種法の開発および抵抗性系統の探索
水産学専攻	小 林 桃 子	光波長制御によるクエ種苗生産の効率化に関する研究
応用生命化学専攻	奥 原 大 樹	カイコガpH感受性塩素チャネルの構造と機能の多様化に関する研究
	橋 本 佳 祐	脂肪分の過剰摂取が腹部大動脈瘤の進展・破裂に及ぼす影響とその作用機序の解明
環境管理科学専攻	池ヶ谷 健 吾	カワバタモロコの地理的変異と分類に関する研究
バイオサイエンス専攻	崎 下 絢 子	アスコルビン酸生合成に関与する転写因子の解析
	田 中 盾	イネの生体防御に関わるGHファミリー18キチナーゼに関する研究

緑友会へのご寄付お願い

このたび緑友会は、会報発行をはじめ卒業生名簿の管理、緑友会賞の授与などの緑友会活動のさらなる活動充実の為の原資として卒業生のみなさまに寄付をお願いする次第です。経済状況が厳しい折に誠に恐縮でございますが、緑友会の現状をご理解頂き、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお寄付金は一口5,000円とさせて頂き、お一人様の上限はございません。お振り込みの際には、**氏名、卒業年度を合わせてお知らせ頂きますようお願い申し上げます。**（お手数ですが、お振り込み後にお電話またはメールで、ご住所、お名前、卒業年度をお知らせ頂ければ幸いです）

ご協力ありがとうございます。今後も会員相互の親睦を深め母校の発展に寄与して参りたいと考えております。どうかご支援賜りますようお願い申し上げます。
(注) 公開をご希望されない方については、掲載しておりません

寄付者芳名一覧 (2017年度ご寄付分)
東畑 弥和 様 (昭和52年度 農学化学科)
野間 耕治 様 (昭和60年度 食品栄養学科)
加藤 明宏 様 (昭和60年度 食品栄養学科)

○連絡先○
近畿大学農学部
緑友会事務局
電話 0742-43-7273 (2030)
E-mail ryokujim@nara.kindai.ac.jp

○振込口座○
三菱東京UFJ銀行
富雄出張所
普通 3574857
近畿大学農学部 緑友会



当学科では、新設された花卉園芸学研究室に細川宗孝先生が教授として着任されました。さらに、園芸植物学研究室の小枝壮太先生が講師から准教授に昇格されました。園芸療法士を10名の卒業生が取得し、40名の現4年生にアグリビジネスマイスターの認定書が授与されました。いっぽう、熟慮の上、本年度より園芸療法士資格認定コースの新たな募集を停止し、その代替として、農業女子プロジェクトへの参画や先端農業プロジェクトへの挑戦を掲げました。今後、アグリビジネスマイスターとの有機的な連携を始めとして、教員一同が新たな試みにチャレンジしつつ、教育と研究活動に邁進する所存です。卒業生の皆様方のご支援を賜りますようお願い致します。



学科の近況

農業生産科学科

学科長 飯嶋 盛雄

当学科では、この数年間に4名の新任教員を迎え、生物学や化学に関する研究分野が充実しました。水産白書では、近畿大学が参加する研究グループが開発したゲノム編集の「マッスルマダイ」も紹介されました。他方では、水産物需要や養殖生産が世界的に増加する一方で、我が国のシェアが低下するという問題に加えて、サンマをはじめとする資源の近隣諸国との競合や海中を浮遊するマイクロプラスチックなどが新たな課題として浮上してきました。新任教員を加えてこれらの課題解決に向けた研究に挑戦するとともに、授業や広報活動を通じて研究成果の社会還元を努めたいと考えています。卒業生の皆様のご支援、ご協力をよろしく願います。

当学科では、長年にわたり応用微生物学研究室で教育・研究にご尽力いただいた岸本憲明教授が定年退職されました。その後任として上垣浩一教授を迎え、新たな体制を築きました。上垣先生は、酵素の構造機能解明と阻害剤の開発、清酒など醸造製品の製造効率化など微生物研究の成果の社会への還元に取り組まれています。また、倉田淳志先生と伊原誠先生が准教授へ昇任され、学科の教育と研究が一段と発展するものと期待されます。倉田先生は高温・低温・高圧など特殊な環境に生息する微生物を、伊原先生は生物が刺激を感じる機構を研究されています。最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康とご活躍を祈念し、学科の近況報告とさせていただきます。



水産学科

学科長 多田 稔



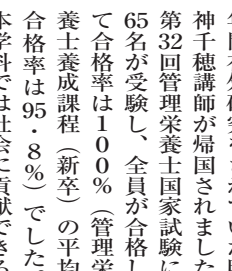
応用生命化学科

学科長 板倉 修司



当学科では、平成30年4月1日から公衆栄養学研究室に松田邦子特任講師、臨床栄養学研究室に寺本陽美契約助手を新たにお迎えしました。一方、3月末で郡俊之准教授と上西梢契約助手が退職されました。また、カナダのブリテッシュコロンビア大学で1年間在外研究をされていた明神千穂講師が帰国されました。第32回管理栄養士国家試験に65名が受験し、全員が合格して合格率は100%（管理栄養士養成課程（新卒）の平均合格率は95.8%）でした。本学科では社会に貢献できる人材を育成し、食と栄養を通して健康の維持・増進に寄与する研究成果を挙げるよう努力してまいります。今後とも緑友会の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

当学科では、平成30年3月に内海龍太郎教授が退職されました。4月には、柏崎玄伍助教が着任され、田茂井政宏先生が教授に、加藤明宣先生が講師に昇格されました。また、天然物有機化学研究室とバイオ分子化学研究室が統合して生物有機化学研究室となり、生物化学分野をリードする研究体制が構築されました。また、本年度も、本学科の優れた研究成果が多くのメディアで取り上げられたほか、大学院生が各学会において数多く受賞し、大変嬉しく思います。今後も、教員一丸となって研究・教育に邁進してまいりますので、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



食品栄養学科

学科長 上嶋 繁

松本光明教授および松沼瑞樹助教が4月に着任されました。松本教授は森林管理学が専門で、地球温暖化に関わる森林のCO2吸収の研究などで活躍され、森林資源研究室を新たに立ち上げます。水圏生態研究室に所属する松沼助教は、魚類分類学が専門でカサゴ研究の第一線で活躍されています。里山プロジェクトや奈良県等との地域連携活動も、新たな局面を迎え益々の躍進が期待されています。教員一同、学科のさらなる発展を目指しておりますので、緑友会の皆様のためまぬご支援を引き続き賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当学科では、学科発足当初からご尽力いただいた、池上甲一教授および細谷和海教授が平成29年度末に退職なされました。両教授の後任として、

環境管理学科

学科長 松野 裕



バイオサイエンス学科

学科長 川崎 努

当学科では、平成30年3月に内海龍太郎教授が退職されました。4月には、柏崎玄伍助教が着任され、田茂井政宏先生が教授に、加藤明宣先生が講師に昇格されました。また、天然物有機化学研究室とバイオ分子化学研究室が統合して生物有機化学研究室となり、生物化学分野をリードする研究体制が構築されました。また、本年度も、本学科の優れた研究成果が多くのメディアで取り上げられたほか、大学院生が各学会において数多く受賞し、大変嬉しく思います。今後も、教員一丸となって研究・教育に邁進してまいりますので、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

学科研究室・教員

農業生産科学科

- 育種学 (種坂 英次・築山 拓司)
- 園芸植物学 (神崎 真哉・小枝 壮太)
- 昆虫学 (香取 郁夫・米谷 衣代)

- 作物学 (飯嶋 盛雄・山根 浩二・廣岡 義博)
- 植物感染制御工学 (松田 克礼・野々村 照雄)
- 植物・人間関係学 (林 孝洋)
- 農業経営経済学 (増田 忠義・大石 卓史)
- 花卉園芸学 (細川 宗孝)

水産学科

- 漁業生産システム (光永 靖・鳥澤 真介)
- 水産経済学 (多田 稔)
- 水産生物学 (小林 徹・小林 靖尚・渡邊 俊)

- 水産増殖学 (太田 博巳・澤田 好史・石橋 泰典)
- 水産利用学 (塚正 泰之・安藤 正史・福田 隆志)
- 水族環境学 (江口 充・永田 恵里奈・谷口 亮人)
- 海棲哺乳類学 (酒井 麻衣)

応用生命化学科

- 応用細胞生物学 (森山 達哉・財満 信宏)
- 応用微生物学 (上垣 浩一・倉田 淳志)
- 食品微生物工学 (白坂 憲章・福田 泰久)

- 森林生物化学 (板倉 修司・梅澤 究)
- 生命資源化学 (飯田 彰・澤邊 昭義・山下 光明)
- 生物制御化学 (松田 一彦・森本 正則・伊原 誠)
- 学科付き (吉岡 佐知子)

食品栄養学科

- 栄養機能学 (米谷 俊・竹森 久美子)
- 栄養教育学 (川西 正子・明神 千穂)
- 給食経営管理学 (富田 圭子・安岡 美総)

- 公衆栄養学 (伊藤 龍生・松田 邦子・蒲 尚子)
- 生体機能学 (上嶋 繁・安澤 俊紀・赤田 茉佑子)
- 食品化学 (渡辺 克美・上田 茂登子)
- 臨床栄養学 (木戸 慎介・寺本 陽美)

環境管理学科

- 環境化学 (城嶋 透・森 美穂)
- 環境政策学 (鶴田 格・前満 光弘)
- 里山生態学 (澤島 拓夫・河内 香織)

- 国際開発・環境学 (八丁 信正・松野 裕)
- 水圏生態学 (ジン タナゴン・松沼 瑞樹)
- 森林資源学 (松本 光朗・奥村 博司)
- 保全生態学 (北川 忠生・早坂 大亮)
- 学科付き (阿部 進)

バイオサイエンス学科

- 植物分子遺伝学 (川崎 努・山口 公志)
- 植物分子生理学 (重岡 成・田茂井 政宏)
- 生命情報工学 (武田 徹)

- 生物有機化学 (北山 隆・大沼 貴之・柏崎 玄伍)
- 動物発生工学 (加藤 容子・谷 哲弥)
- 動物分子遺伝学 (佐渡 敬・岡村 大治)
- 分子生物学 (篠原 美紀・加藤 明宣)

教養・教育基礎部門

木村 正則・赤羽 仁志・西垣 佐理・ロバート・ジョン・シェリダン

太字：新任

— 農学部祭の案内 —

今年も毎年恒例となりました「農学部祭・飛鳥祭」の季節がやってまいりました。今年の農学部祭は11月1日(木)から11月3日(土・祝)までの3日間開催する予定です。現在、農学部祭実行委員会や各参加団体が日々農学部祭にむけ準備・活動しています。農学部祭実行委員会では今年も農学部祭の象徴であるバスロータリー側の入口に設置する凱旋門や渡り廊下上に設置する巨大壁画の製作やステージ企画の考案に取り組み、参加してくださった皆様の記憶に残る農学部祭にすべく日々活動しています。農学部祭の構成としては、初日は在校生のみ参加することができる体育祭が行われ、2日目・3日目は一般の方も楽しんでいただける文化祭が行われるという形式になっています。今回の農学部祭のテーマは「華」がテーマとなり、2日間行われる文化祭の中では、毎年近大マグロの解体ショーが行われ、昨年も今話題の近大マグロが無料で試食できるとあって、多くの方々に越えいただきました。その他にも、ご家族で楽しめるヒーローショーやお笑い芸人のライブ、各研究会系クラブ団体の展示会や部活や研究室で出店する模擬店など、各種イベントが目白押しであり、農学部生が胸に秘めている自分自身の色をした「華」が開花し咲き乱れる姿を是非楽しんで下さい。卒業生の皆様方や地元住民の方々、在校生全員が楽しめる農学部祭を農学部祭実行委員会が中心となり、農学部生一丸となって作り上げていこうと思います。当日の皆様のお越しを学生一同、心よりお待ちしております。

新任の挨拶

農業生産科学科 花卉園芸学研究室
教授 細川 宗孝

平成30年4月1日付で農業生産科学科花卉園芸学研究室（新設）に教授として着任いたしました細川宗孝と申します。京都大学を卒業後、同大学で助手、准教授を経て近畿大学でお世話になることになりました。長年、同じ大学で研究と教育に携わり研鑽を積むことが出来ましたが、徐々にブレイヤーとしてではなく、大局的な視点から企画を実現してみたいという想いがつづり、自分のラボを求めていた時にこの縁を頂きました。

私は園芸作物の生産において大きな問題となる収量低下を作物の内的な問題（老化など）と病気や害虫防除の視点から研究を行ってまいりました。見出された問題点に対し、独自の切り口を準備し、様々な専門家の協力を仰ぎながら技術開発するというのが私のアプローチです。このようなやり方で、キクに感染するウイロイド防除、花の品質の安定化などに一定の評価を頂きました。近畿大学では研究者や事務の方が前職よりも近くにおられる気がします。皆さんのご協力を仰ぎながら、新しいことにチャレンジしたいと思っています。また、教育面でも前職時代にはチャンスのなかった内容の講義などについても提案できれば幸いです。人材育成に心身を捧げる所存でございますので、緑友会会員の皆様にはご指導いただきましますよう、よろしくお願い申し上げます。

応用生命科学 応用微生物研究室
教授 上垣 浩一

平成30年4月1日付で応用生命化学科応用微生物学研究

室に教授として着任いたしました上垣浩一と申します。大阪大学理学部を卒業し同大学院で学位を取得後、日本学術振興会などのポスドクを経験し、国立研究開発法人・産業技術総合研究所を経て参りました。産総研には丁度20年いました。農学部も奈良に移転し30年を迎えるとお聞きし、キリの良さからこの縁を感じております。着任してからまだ2ヶ月弱ですが大勢の学生さんを見ると新たなエネルギーを感じます。長く研究所にいましたので大学の授業や学生さんとのコミュニケーションは非常に新鮮で楽しく過ごさせていたいです。これから研究所で経験した研究だけでなく研究成果を発信していくための産学連携の大切さを伝えていければと思っています。近畿大学農学部の発展に少しでも経験が生かせるよう努力していきますので緑友会の皆様のご指導を賜わりますようお願いいたします。

食品栄養科学 公衆栄養学研究室
特任講師 松田 邦子

本年4月より、食品栄養科学公衆栄養学研究室に特任講師として着任しました松田邦子と申します。

超高齢社会を迎える在宅医療・介護が進められている中、在宅療養者の栄養管理の重要性が叫ばれています。一方、医療分野ではより専門的で高度な栄養管理が求められ、管理栄養士が担う役割は大きく、資質の向上が求められています。この社会情勢に対応できる管理栄養士の育成が食品栄養学には課せられていると考えます。これまでの病院、保健所、県庁での経験を生かし、学生の皆さんが必要な知識と能力、技術を身につけられるよう、短い期間ですが力を注ぎたいと思っています。皆様ののご指導ご鞭撻よろしく

お願い申し上げます。

食品栄養科学 臨床栄養学研究室
契約助手 寺本 陽美

本年5月より、食品栄養科学の臨床栄養学研究室に契約助手として着任いたしました。寺本陽美と申します。今年の3月に武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科を卒業後、近畿大学でお世話になることになりました。学生生活は終えましたが、助手として再び大学に戻ることとなり、学問に触れる機会をいただき大変嬉しく思います。

数か月前まで大学生だった私が先生と呼ばれるようになり、学生との関わり方に少々戸惑いながら日々を過ごしています。多くの先生方に支えてもらいながら、学生のサポートに加え研究室のお手伝いにも懸命に取り組んでいく所存でございます。未熟者故、至らない点は多々ございますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

環境管理科学 森林資源学研究室
教授 松本 光朗

本年4月、環境管理科学科森林資源学研究室に着任しました松本光朗です。前職の国立研究開発法人 森林総合研究所では、森林による二酸化炭素吸収量の算定手法の開発や、途上国の熱帯林破壊を抑制する国際制度の構築に取り組んできました。また、IPCC（気候変動に関わる政府間パネル）での評価報告書の執筆や、気候変動枠組条約の国際交渉を通して、科学技術と制度政策の両面から問題解決を進めてきました。

近畿大学農学部が所在する奈良県は、吉野など歴史的な林業地域を持つと同時に、奈良キャンパス周辺のような身近な里山が広がっています。しかし、これらの森林は林業の衰退、ナラ枯れによる劣化

といった課題に直面しています。私は、これらの林業、里山をはじめとする森林分野の課題の解決に貢献できるように人材を、近畿大学での教育を通して育成できればと思っています。皆様にはご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

環境管理科学 水圏生態学研究室
助教 松沼 瑞樹

平成30年4月1日付で環境管理科学水圏生態学研究室に助教として着任いたしました松沼瑞樹と申します。私は鹿児島大学にて学位を取得した後、西海区水産研究所と日本学術振興会などの研究員を経て現職に至りました。

私の専門は魚類分類学で、これまでにカサゴやハタの仲間など主に海産魚類の研究を行ってきました。また、魚類の種多様性を明らかにすべく東南アジアを中心として国内外の各地で魚類相調査を行ってきました。今後はこれまでの研究に加え、奈良県を中心とした淡水魚類の保全に関する調査研究を展開していきたいと考えております。また、今後は研究のみならず、講義や卒業研究を通じて社会に貢献できる人材の育成にも励んでいきたいと思っています。近畿大学の教員としても貢献できるよう一生懸命取り組んでいく所存です。至らない点は多々ございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

バイオサイエンス学科 生物有機化学研究室
助教 柏崎 玄伍

バイオサイエンス学科に助教として着任しました、柏崎玄伍と申します。京都大学で理学博士を取得後、ルートヴィヒマックスミリアン大学ミュンヘン、理研、京都大学で研究を行いました。有機合成を主体としながらハイス

ループットシークエンサーを用いた解析等の技術も身に付けました。物質を構造から考える化学と、それが生物に対してどのような影響を与えるかの生物学的な視点の両方向から研究を展開するとともに、より挑戦的な研究計画を練って参ります。ミュンヘンへの留学経験は想像以上に有意義なものでした。活発なコミュニケーションから生まれる勢いを目の当たりにし、自ずと引き込まれていきました。物事がスムーズに進む楽しさ。これからは農学部の学生と一緒にそのような経験を重ねる所存です。口が達者であることも強みとしながら研究と教育に励み、何事も積極的に引き受けて研鑽を積みみたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

環境管理科学 水圏生態学研究室
助教 松沼 瑞樹

平成30年4月1日付で環境管理科学水圏生態学研究室に助教として着任いたしました松沼瑞樹と申します。私は鹿児島大学にて学位を取得した後、西海区水産研究所と日本学術振興会などの研究員を経て現職に至りました。

私の専門は魚類分類学で、これまでにカサゴやハタの仲間など主に海産魚類の研究を行ってきました。また、魚類の種多様性を明らかにすべく東南アジアを中心として国内外の各地で魚類相調査を行ってきました。今後はこれまでの研究に加え、奈良県を中心とした淡水魚類の保全に関する調査研究を展開していきたいと考えております。また、今後は研究のみならず、講義や卒業研究を通じて社会に貢献できる人材の育成にも励んでいきたいと思っています。近畿大学の教員としても貢献できるよう一生懸命取り組んでいく所存です。至らない点は多々ございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

バイオサイエンス学科 生物有機化学研究室
助教 柏崎 玄伍

バイオサイエンス学科に助教として着任しました、柏崎玄伍と申します。京都大学で理学博士を取得後、ルートヴィヒマックスミリアン大学ミュンヘン、理研、京都大学で研究を行いました。有機合成を主体としながらハイス

に与えてくださったことに厚くお礼申し上げます。

研究室の院生や学生達と一緒に研究に取り組み、試行錯誤しながら新たな結果や発見が得られた喜びを共有できたことが懐かしく思い出されます。そして一段と成長した学生たちが社会に旅立っていく姿を見るとき、また、卒業生が社会で活躍している様子を見るたびに、教員生活でこの上のない喜びでした。

農学部で過ごした18年間は、私が社会で働いた42年間のなかで最も充実した時間となりました。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と、近畿大学農学部のますますのご発展をお祈り申し上げ、定年退職のご挨拶とさせていただきます。

前食品栄養科学 准教授
郡 俊之

私は、2006年4月から12年間、勤務させて頂きました。試行錯誤の日々でしたが多くの学生さんと教職員の皆様に出会うことができ、貴重な経験をさせて頂けたことに改めて感謝しております。この4月からは、甲南女子大学の医療栄養学科（管理栄養士養成課程）に着任しております。まだ一学生しかおりませんが、管理栄養士として働くようになった際に、現場で起きている様々な問題に対して研究し、それらを社会に情報発信していけるような管理栄養士になって欲しいという願いを込めて、微力ながら教育・研究に携わっていきたいと思います。今後とも、皆様のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

前食品栄養科学 教授
岸本 憲明

緑友会会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2010年4月から18年間近畿大学農学部にて勤務させて頂きました。この間、温かくご支援ご指導いただきました皆様に感謝申し上げます。かけがえのない大切な教育と研究の機会を私

に残した多くの研究成果を論文や本にすることに専念したいと思います。

最後に緑友会会員ならびにすべての教職員の皆様の益々の活躍と発展を祈念し、退職の挨拶に代えさせていただきます。

前バイオサイエンス学科 教授
内海 龍太郎

2016年に採択された文科省の現代GP（里山修復プロジェクト）には、プロジェクト・リーダーとして多少の貢献をし、いくつかの新機軸を打ち出した。その成果を引き継いで今も学生の自発的な活動が続いていることは喜ばしい限りである。

地球はあちこちで病変が深刻化し、もはや末期に近いところまで来ている。どこでストップできるのか。環境管理学科だけでなく、農学部全体としてもこの人類的課題に向き合うことが求められている。その際に、里山プロジェクトで培った学生の自発性が生きたら望外の喜びである。

前環境管理科学 教授
細谷 和

緑友会会員の皆様には益々ご清祥のことと拝察いたします。

近畿大学には平成12年4月に教授として着任し、以来18年間務めさせて頂きました。それ以前は農林水産省所轄の水産庁養殖研究所および中央水産研究所において、魚類の育種と保全を中心に研究を進めて来ました。研究から教育への転換は、私にとって決して難しいことではありませんでした。21世紀は環境の時代と言われています。偶然にも私が近大に赴任したのもその節目に合致します。粗削りではあるけれど、可能性を秘めた優秀な農学部生に巡り会え、彼らに水辺の自然と生命のすばらしさを伝えることができたことはこの上ない幸せです。事実、12名の課程博士を社会に送り出し、現在、それが魚類学の諸分野で活躍しています。私はしばらく魚類学会の会長として、会員である近大の先生方のお力を借りながら学会の運営に携わるとともに、在職中にやり

前環境管理科学 教授
池上 甲一

私は1993年に赴任した。赴任して驚いたことは多々あるが、中でもトップクラスのものは正月に日本酒の1合瓶と手ぬぐいが出たことである。これは、国立と私立の違いは語れない驚きだった。まさに、農村的なコミュニケーションが生きていると感じた次第である。その農学部も今や一番勢いのある学部となった。私も、



新入生の夢

私の夢

農業生産科学科

河村 俊

夢を現実に

水産学科

佐々木 悠人

私は、幼いころから興味のあった昆虫のことや、環境について学びたいと考え、近畿大学農学部農業生産科学科に入学しました。入学後は、農業や生物にも興味をもつようになり、日本や世界における農業の現状や環境問題、遺伝子組み換えなど幅広い分野を学ぶことができました。特に毎週金曜日の農学野外実習では、種まきから栽培までの一連の方法や、緑肥の機能や害虫の対策など、自然と触れ合いながら多くの知識を得ることができました。また、私の所属している生物研究会では、私が最も興味をもっていた昆虫だけでなく、植物についても勉強しています。6月の展示会では、自分一人で展示されている植物を説明できるように、毎日積極的に勉強会に参加しようと考えています。将来の夢はまだ明確に決まっていますが、大学で得た知識を活かして、日本の農業の発展に少しでも貢献できるような職業に就きたいと考えています。

私の夢は、大学教員になり、魚の行動や生態について研究することである。

中国地方の山奥で育った私は、幼少期から動植物に触れ、釣りを通じて、特に魚へ強い興味を持った。高校生の時、専門性への関心から大学で行われる講演会や研究会へ積極的に参加した。そこで、大学教員の方々が、自分自身で行っている最先端の研究を明快に、かつ分かりやすく説明していたことに驚いた。さらには水産資源の枯渇や海洋汚染などの環境問題の解決策の模索と未来を切り開こうとする姿に強い憧れを抱いた。

最先端の研究を行っている水産学科に魅力を感じ、私は進学した。大学生活は始まったばかりだが、講義内容はとても充実し、専門性の高い学習が毎日新鮮である。恵まれた環境で学べることに感謝し、大学生活を有意義に過ごしたい。

今後の講義、実習、実験さらには卒業研究を通して、魚の行動や生態が、なぜ、どうして、そのようになったかを科学的に追究していきたい。



私の夢

応用生命化学科

林 幸穂

「私の夢は、天然成分の化粧品品の企画開発をすることです。(略) 今日からこの四年間、non-stopで高みを目指し続けたい。見ていてください。必ず、やっつけます。」

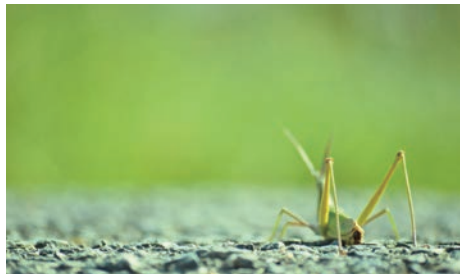
2018年度近畿大学入学式で、新入生総代として私はこの様に述べました。

これは、近畿大学への、また、自分への挑戦状でもありました。

実は、ここには本番では言えなかった言葉がありました。「If you want to be happy, be it.」幸せになりたいなら、なりなさい。

今、その言葉をとても実感しています。入学してから、多くの人と繋がり、掴めるチャンスを全力で掴んできました。そして、今、学部をまたいだ化粧品品の企画開発プロジェクトが立ち上がったのです。入学後1か月半で立ち上げるなんて、ふつう不可能。でも、それが現実となりました。

どうやら、不可能というものは自分次第で可能にもできるみたいです。だから私は、不可能を恐れず、高みを目指し続けます。見ていてください。必ず、やっつけます。



私の夢

食品栄養学科

丹生 彩音

私は、将来管理栄養士の資格を取得し、NSTチームの一員として病院で働きたいと考えています。近年、生活習慣病は成人だけが引き起こす病気ではないことが明らかとなり子供に対しても食生活の改善が求められています。一方で、高齢者の低栄養も大きな問題となっており健康を維持するための適切な栄養管理が必要とされています。今後、健康寿命という言葉がクロージアアップされるにつれ

若者から高齢者まで「医療としての食」の重要性が高まっています。そして、「医療としての食」の中心となるのは管理栄養士であり、それを実践していくうえでNSTチームの存在はより重要性を増してくる考えられます。これからの管理栄養士には、高度な知識を提供する力や患者様とのコミュニケーション能力だけでなく、チームのメンバーの意見を調整する力が必要になってくるでしょう。これからの四年間、患者様に頼って頂ける管理栄養士になるために励みたいのです。

これからの抱負

環境管理学科

二見 洋平

桜が舞う4月1日、私は近畿大学農学部環境管理学科に入学しました。いよいよ大学生活が始まるという期待感がありました。私が大学で頑張りたいと考えている事は、大きく分けて3点あります。まず1点目は頑張りたい事は、海外留学です。環境管理学科では、毎年3月になるとタイのチェンマイ大学に短期留学に行く企画を行っています。私は大学1回生の春休みに、その企画に参加してタイの文

化を楽しむとともに、タイの友達を沢山作って共に勉強したいと考えています。第2に部活動です。部活動は、協調性を養うために最適な機会あり、これは社会で欠かせない素質だと考えているからです。私はサイクリング部に入学して、自転車に乗りながら風景を楽しみ、部活の友達を沢山作りたいと思っています。そして3点目は、最も重要な勉強です。私は理系の学生ですが、英語などの将来重要となる科目にも力を入れたと考えています。以上の3点が私の目標です。頑張っていきます!!

将来の夢

バイオサイエンス学科

酒井亜衣佳

私は農家の仕事に興味があり、米などの作物を自分で育てることができたら楽しいだろうな、と考えていました。そのような中、高校1年生の時に農学部のオープンキャンパスに参加して、先輩方から作物の品種改良の説明を受け、さらに大学と企業が商品を共同開発していることを知り、農学に興味を持ち始めました。

そして、将来は商品の企画開発の仕事をしたと考えてるようになりました。自らが企画開発に携わった商品が多くの人の助けとなり、喜んでもらえることを考えると、とてもやりがいのある魅力的な仕事だと思っています。今は自分がどの分野に興味があるのか、選択できるほどの知識はありません。大学での授業を通じて豊富な知識を習得し、自分の夢を実現できるように、4年間の大学生活を大切に過ごしたいと思っています。



近大アーマリン

アーマリン近大は安心・安全・美味しい魚を提供します

近大の魚と配所の恵み

近畿大学 水産研究所

大阪店
大阪市北区大深町3-1
グランフロント大阪北館6階
TEL:06-6485-7103
ランチ 11:00~15:00 (L.O. 14:00)
ディナー 17:00~23:00 (L.O. 22:00)

銀座店
東京都中央区銀座6丁目2番先
東京高速道路山下ビル2階
TEL:03-6228-5863
ランチ 11:30~15:00 (L.O. 14:00)
ディナー 17:00~23:00 (L.O. 22:00)
日・祝はL.O. 21:00

近大マグロと選抜鮮魚のお造り盛り

特選アーマリン近大は平成30年2月に「持続可能な水産養殖のための確立認証 (SCSA 認証)」を取得しました。

水族館以上、であること。

城崎マリンワールド

あなたの企業のお手伝い

photo shop **イナダカメラ**

21世紀へ
ニューメディア
プリント

八尾市服部川7丁目153
TEL 0729 (41) 0909 / FAX 0729 (41) 0934
携帯 09037290909
E-mail t-inada@natural.zaq.jp
代表者 稲田 忠明 (農学科 昭和43年度卒)

私は2017年4月に株式会社村上農園に入社しました。村上農園はスプラウトを栽培する施設野菜メーカーです。主力商品は、予防医学から生まれた高成分野菜「プロッコリースーパースプラウト」や、えんどう豆の若葉で栄養豊富な緑黄色野菜「豆苗」などです。入社一年目の仕事は、それらを店頭で販売するために店舗の課題や要望を聞き、「売れる売場」を提案することでした。そんな中、「店舗の声を汲み取り最適解を目指す」ことを念頭に商品の新たな陳列方法を提案したところ、売上点数が増えました。この実績が評価され、本年度から私は目標であった営業担当になり、量販店バイヤーや市場関係者との商談を通じてさらなる販売を進めています。私が大学院での研究活動で培った「目的に対してどのように道筋を立てて実行するか」という考え方は、営業をするうえで大きな「武器」になっています。皆様も自分だけの「武器」を探しながら有意義な学生生活を送ってください。

卒業生だより

職場紹介

社会で一步前進できた考え方

農学研究科農生産科学専攻平成29年度卒

川戸 良将



私は「三栄源エフ・エフ・アイ株式会社」という、食品添加物を扱う会社勤めです。現在は食品保存技術研究室という部署で、保存料や日持向上剤といった、食の安全を支えるための技術・製品の研究開発を行っています。食品添加物の大半は、それ自体が食品の主役を担うものではありません。ですが、現代の多種多様な食の美味しさ・付加価値を作る源、いわば影の立役者です。味・香り・食

食の可能性を生む食品添加物

農学研究科農生産科学専攻平成29年度卒

山口 大志

私は城崎マリンワールドという兵庫県の水族館で働いています。私はイルカ・アシカショーのチームに所属しています。仕事では、刻みみのスケジュールに加え、動物の健康管理、イベントの企画、ミーティングなど走り回るような毎日を送っています。はじめは見分けのつかなかった動物たちも、家族と一緒にいる以上に長い時間を過ごしていると2年目の今では全く違う顔に見えます。性格が1頭1頭違うため、その動物に合わせた接し方が必要で、また動物だけでなく先輩方とのコミュニケーションにもまだまだ四苦八苦しています。

新米トレーナー

本座科(平成28年度卒)

本多 なつ野

私は城崎マリンワールドという兵庫県の水族館で働いています。私はイルカ・アシカショーのチームに所属しています。仕事では、刻みみのスケジュールに加え、動物の健康管理、イベントの企画、ミーティングなど走り回るような毎日を送っています。はじめは見分けのつかなかった動物たちも、家族と一緒にいる以上に長い時間を過ごしていると2年目の今では全く違う顔に見えます。性格が1頭1頭違うため、その動物に合わせた接し方が必要で、また動物だけでなく先輩方とのコミュニケーションにもまだまだ四苦八苦しています。

シヨールでは、マイクを使ってお客様の前でしゃべります。朝は発声練習から始まり、イントネーションや腹式呼吸に苦戦しながらも少しずつ上達を目指しています。辛いこと、大変なことの方が多いように思ってしまう時でも、ふとすぐそばに動物がいて目と目が合うのは他の何事にも代えられません。水族館を通して、動物たちに癒されたり、元気をもらおう方が1人でも増えたらと思います。

感じると、食のあらゆる要素を生み出す力を持ち、その可能性は正に無限大です。日々出会う、新たな発見や体験を楽しみつつ、学生時代に得た知識と経験も総動員して、仕事に取り組んでいます。振り返ってみると、学生時代は知りたかった事を自分の意思で自由に学べた、貴重な時間でした。在学生の皆さんも、今から様々な世界に目を向けて、広く知識や経験を蓄積して欲しいと思います。いずれ卒業して新たな世界に飛び込んだ時、きっと何かの形で役立つ日が来ると思っています。

日本の水辺を調査する

農学研究科環境管理専攻平成27年度卒

井藤 大樹



私は、大学を卒業後、大阪市こども青少年局保育施設部保育企画課に就職し、今年で4年目となりました。主に、乳幼児期の食事に関わる業務に携わり、市内の保育施設等への監査や、児童や保護者対象の食育活動、食育媒体やマニュアルの作成などを行っています。私が所属する指導監査グループには、栄養士のほかに、保育士や看護師も在籍し、他職種と連携を図れる環境となっています。

行政栄養士だからできること

食品栄養学科(平成26年度卒)

福山 真依子

私は、大学を卒業後、大阪市こども青少年局保育施設部保育企画課に就職し、今年で4年目となりました。主に、乳幼児期の食事に関わる業務に携わり、市内の保育施設等への監査や、児童や保護者対象の食育活動、食育媒体やマニュアルの作成などを行っています。私が所属する指導監査グループには、栄養士のほかに、保育士や看護師も在籍し、他職種と連携を図れる環境となっています。



平成29年度より、日本国際湿地保全連合で働いています。現場では、研究員として採用され、環境省から依頼されている「重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)」の調査の一部を実施しています。私が担当しているのは、主に湿原調査や湖沼での淡水魚類調査、沿岸域でのアマモ場・藻場の調査で、生物種の減少や種組成の変化などをいち早く検出し、自然環境保全に役立てることを目的としています。

サイエンスに関わる喜び

農学研究科バイオサイエンス専攻平成28年度卒

松下 淳



私は、京都に本社があるナカライテック株式会社という試薬メーカーに勤務しています。当社の試薬が使われている研究領域は極めて幅広く、ライフサイエンス分野、先端医療、材料工学など化合物を扱う領域のほぼ全部を網羅しており、それぞれの製品で異なる品質が要求されています。私が所属する検査課では、これらの製品について精製した化学品の純度や密度、培地中の品質検査を行っています。また、扱う分析機器が多岐にわたるため、これまで在学時代に学んできた知識以外にも広範な知識や実験技術が必要で自身の未熟さを痛感することもあります。当初、これまでにユーザとして関わっていたライフサイエンス業界が売り手の立場に変わることによって、不思議な感覚がありました。多くの研究者を試薬という形で支援できることにやりがいを感じています。これからも多くの基礎研究を支える試薬メーカーとして、研究者の縁の下力持ちになれたらと思います。



私は、大学・大学院時代に水圏生態学研究室で淡水魚類の分類や進化、保護の研究を行っていました。大学の時の経験を活かして、日本各地の素晴らしい風景の中で希少な生物を調査し、生態系の保全につなげる仕事に就くことができました。今後も日本の自然環境保全に少しでも役に立てるよう尽力していきます。

私は、京都に本社があるナカライテック株式会社という試薬メーカーに勤務しています。当社の試薬が使われている研究領域は極めて幅広く、ライフサイエンス分野、先端医療、材料工学など化合物を扱う領域のほぼ全部を網羅しており、それぞれの製品で異なる品質が要求されています。私が所属する検査課では、これらの製品について精製した化学品の純度や密度、培地中の品質検査を行っています。また、扱う分析機器が多岐にわたるため、これまで在学時代に学んできた知識以外にも広範な知識や実験技術が必要で自身の未熟さを痛感することもあります。当初、これまでにユーザとして関わっていたライフサイエンス業界が売り手の立場に変わることによって、不思議な感覚がありました。多くの研究者を試薬という形で支援できることにやりがいを感じています。これからも多くの基礎研究を支える試薬メーカーとして、研究者の縁の下力持ちになれたらと思います。

私は、京都に本社があるナカライテック株式会社という試薬メーカーに勤務しています。当社の試薬が使われている研究領域は極めて幅広く、ライフサイエンス分野、先端医療、材料工学など化合物を扱う領域のほぼ全部を網羅しており、それぞれの製品で異なる品質が要求されています。私が所属する検査課では、これらの製品について精製した化学品の純度や密度、培地中の品質検査を行っています。また、扱う分析機器が多岐にわたるため、これまで在学時代に学んできた知識以外にも広範な知識や実験技術が必要で自身の未熟さを痛感することもあります。当初、これまでにユーザとして関わっていたライフサイエンス業界が売り手の立場に変わることによって、不思議な感覚がありました。多くの研究者を試薬という形で支援できることにやりがいを感じています。これからも多くの基礎研究を支える試薬メーカーとして、研究者の縁の下力持ちになれたらと思います。

近畿大学校友会

食品支部

会員募集中!

支部概要

設立 平成26年6月7日

相談役 李忠儒

年会費 10,000円

連絡先 相談役 李忠儒

株式会社 日本東泉

大阪府住之江区中加賀屋2-10-15

TEL 06-6682-2627

【事務局】支部長 岡野邦男

立花容器株式会社

岡山県小田郡矢掛町浅海385-1

TEL 0866-82-3300

食品支部は、食品関連産業に従事する近畿大学校友会によって組織された『母校近畿大学の発展、会員相互の親睦と学びあい、ビジネスチャンスの繋ぎ』を目的とした校友会専門職支部です。

食品メーカーだけでなく、広く全国の農林水産業・飲食・小売・流通・機械・設備・梱包資材等、食品産業全般から参加を募っております。

総会や例会、研修旅行を通じて信頼関係を高めつつ、多様なビジネスチャンスへ繋げていきましょう！校友の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2018年5月27日 第六回総会
67名のご出席を頂きました。

理工学部 西藤和明教授にご講演頂きました。

近畿大学校友会 食品支部 Facebookのご案内

近畿大学校友会 食品支部



近大農学部卒・農業従事者ネットワーク

農家や農業法人などで活躍している近大農学部OB・OGの皆さんを繋ぐネットワークの構築を計画しています。交流会やマルシェなどを開催する予定です。興味のある方は下記のアドレスまでご連絡をお願いします。

農学生産科学科 神崎真哉

連絡先メールアドレス: skanz@nara.kindai.ac.jp

在学生だより

素晴らしい大学生活

農業生産科学科
作物学研究室4回生
山下 海斗

私は、これまでの大学生活の中で学生のうちでしかできないようなことを数多く経験しました。現在所属している陸上競技同好会では、京阪沿線ジョギング走破、琵琶湖一周完走、24時間リレーマラソン参加など、若さと時間のあふれる今しかできないことばかりを経験しました。これらは同好会の同期や先輩後輩と築き上げた一生の思い出として心に刻まれています。また、研究室では、水生植物との混植によるタイズの湿害緩和効果について研究しています。これは、昨年から始動したばかりの研究テーマでわからないことも多く、現在では日々試行錯誤し、研究に動んでいます。

大きな海を、小さな視点から

水産学科
水産環境学研究室4回生
横地 駿

私は、これまで海洋細菌の群集構造を調べ、それがどのような環境要因に影響を受けているのか、細菌や海域の持つ分解能力に影響を与えていくのかについて研究しています。対象とするフィールドは和歌山県白浜と鹿児島県奄美大島にある養殖場で、2ヶ月に1回は白浜へ、年2回は奄美大島へ調査に行っています。

分岐点での選択

応用生命化学科
応用細胞生物学研究室4回生
中村 友美

私は赤十字奉仕団という団体に所属し、献血推進活動、全国車いす駅伝、人権の勉強会など様々なボランティア活動に参加させていただき、普通生活に生きていたなら関わることのなかったであろう年配の方から子供まで多くの方と出会うことができました。先入観や偏見をもたないで積極的傾聴を行う大切さを身につけることができました。何より一緒に活動してきた団員と出会えたことが学生生活の財産のひとつです。

悔いのない毎日を

食品栄養学
公衆栄養学研究室4回生
瀬田 みなみ

これからの私は大学院に進学予定で、ちょうど今、学生生活の折り返し地点です。友達はみんな就活中で置いて行かれていますが、希望通りの研究室に入ることができて、周りの意識も高く恵まれた環境にいることに甘んじることなく、私は私の決めた進学という道突き詰めて頑張ります。

たくさんの自然に囲まれた、緑豊かな学校に通うのも今年で4年目になりました。大好きな人たちと過ごす、ここでの学生生活も残りわずかです。そんな今の私はこれまでの3年間とは全く違った「研究漬け」とも言えるような毎日を送っています。

フィリピンアボ島のウミガメ調査

環境管理学科
水圏生態学研究室4回生
分 部 風花

私は卒業研究でアオウミガメの個体識別調査について研究しています。アオウミガメの横顔の写真を撮影し、その

写真と比較して、側頭部の模様の違いから個体を識別します。この春休みには、3週間フィリピンに滞在し調査を行いました。調査地であるアボ島は、フィリピン・ネグロス島の南東部に位置する小さな島で、多くの野生のアオウミガメが餌を求めてやってきます。アボ島には船着場が無く、ボートからは腰まで水に浸かって島に上陸。水道は無く、シャワーは屋根に貯めた雨水。電力も制限されていて、夜の10時には消灯、月明かりだけが頼りです。朝は、日の出とともに始まるニワトリの合唱で起床。日中は、調査のため海に入ってウミガメと泳ぎ、夜には、真っ暗闇のなか満天の星空を見ました。日本では考えられないような生活で、不便もありましたが、非日常を味わうことのできた数日間でした。普通の大学生活では経験しないであろう、貴重な経験をすることができました。

実りある大学生活

バイオサイエンス学科
生物有機化学研究室4回生
吉川 知美

私は近畿大学農学部への入学が決まった時から、在学中の3・4年生成績優秀者対象の特待生に絶対になろうと決めた

現在、私は有機合成を行う研究室で卒業研究に取り組んでいます。私は有機合成ができる創業に携わる研究開発職に就きたいと思っており、この研究室での経験は将来の仕事に直接的に結びつきます。現時点では知識や技術力がまだまだ不足していますが、この研究生活で失敗や経験から多くのことを学びながら力をつけていきたいと思います。および創業開発に向けた新規有用化合物の構築を目指してこれからの研究生活も頑張っていきたいと思っています。

いのちをつなぐ企業 株式会社アクアテイメント



aquatainment
06-6955-9681
info@aquatainment.jp
代表 松前(西林) 水産学科2005年卒業

緑友会会報原稿募集のお願い

緑友会会報は、同窓生の皆様を結びつける年に一度の会報です。できるだけたくさんの方からの寄稿をお待ちしています。原稿の形式は特に問いません。お気軽にお寄せいただければ幸いです。緑友会事務局又は、研究室の先生宛にご送付下さい。

連絡先：近畿大学農学部 緑友会事務局
〒631-8505 奈良市中町3327-204
電話 0742-43-7273 (内線2030)
メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

第8回KINKANKAN会

イベントを終えて

15期生 安岡 美 総



平成29年11月3日(金)に食品栄養学科卒業生で構成される「KINKANKAN会」のイベントを開催しました。今回のテーマは「卒業生の情報交換会」卒業生の過去・今、これからと在校生の今と在学生ともに学びの多い貴重な時間となったのではないかと思います。お忙しい中、ご参加下さった卒業生・在校生の皆様や学内の先生方、快く講演を引き受け下さった卒業生・在校生の皆様、誠に有難うございました。平成30年度も同時にKINKANKAN会イベントを開催する予定です。詳細は、各期の運営委員より随時ご連絡致しますので、皆様ぜひともご参加ください。

大学院生だより

大学院生とは

農業生産科学専攻博士前期課程
作物学研究室
西野 大暉

私は大学入学当初から研究に対して興味を持っていました。所属する作物学研究室では3・4年生のときに研究に取り組んできましたが、2年間では物足りないと感じていました。進路選択の際に、この物足りなさを補い、研究に深く取り組み自分をより成長させるため大学院進学を選択しました。

私が行っている研究は「コーヒー抽出残渣の有効利用方法の確立」です。コーヒー抽出残渣のほとんどが有効利用されず、廃棄処分されていることが問題となっていました。私はその問題を解決するために、現在コーヒー抽出残渣に対する抵抗種の探索および施肥化技術の検討に取り組んでいます。

大学院では研究だけでなく、研究室運営・後輩指導・講義など様々な事柄に挑戦し、忙しくも充実した日々を送っています。研究への取り組みも大事ですが、周囲の人々・環境などに感謝し、何事にも楽しむ気持ちを持って大学院生活を送っていきたいと考えています。

私の大学院生活

水産学専攻博士前期課程
水産増殖学研究室
高松 真也

学部では環境管理学科に在籍し、ブラックバスの食害に関する研究を行いました。大学院では魚類精子の凍結保存の研究を行うため、水産学専攻に進学しました。精子の凍結保存技術はヒトや家畜の人

工授精、養殖魚の種苗生産、絶滅危惧種の保存等、多方面での利用が可能です。魚が好んで、生物の保全を学んだ私にはぴったりのテーマでした。研究室で飼育しているニホンウナギにホルモンを投与して精子を絞り、最も高い生存率を得られる凍結保存条件の検討を行っています。また、天然記念物であるアユモドキの精子を保存し、それを人工授精に利用する研究にも携わっています。これらの研究は顕微鏡を見ているか、精子が動いているか、適切な凍結条件とは何かを追求する地道な作業ですが、水産増殖の分野ではとても重要な研究であると考えています。得られた成果が、種苗生産現場や生物多様性を保全する一助となることを願いながら、研究に取り組んでいます。

私は平成30年3月に食品栄養学科管理栄養士専攻を卒業し、同月の管理栄養士国家試験に合格することができました。四年間の学部生としての勉強は管理栄養士資格取得のため、決められたレールの上で、定められた知識や技術を学ぶという受動的なものでした。その後研究室での卒業研

私の新たな出発点

応用生命科学専攻博士前期課程
生命資源化学研究室
澤ノ 潤

私が所属する生命資源化学研究室ではタペビア・アペラネタエと呼ばれる南米原産薬樹に焦点を当てた研究開発を行っています。この通称タヒボと呼ばれる樹木は以前より様々な生物活性を示す化合物を有する事が確認されており、植物内に含有されるナフトキノン類の一種であるNQ801に魅了され、私はこの化合物の研究を行うことにしました。NQ801はすでに強い抗腫瘍活性と抗菌活性を示すことが報告されています。私はこれらの類縁体合成及び抗菌活性試験に着手しており、新たな有用化合物の開発にあたっています。

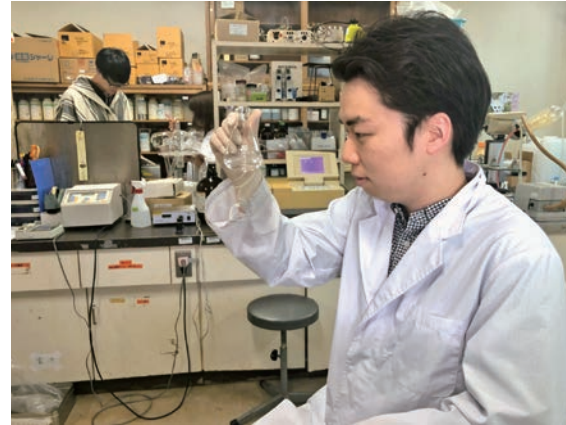
私は学部生の時、将来、人のために、世のために働き、他の人に負けない強みを得るためには今まで大学で学習した事を活かし、さらには自分の武器にできるようなスキルを身に付けることができる大学に進学し、より高度な専門知識や技術を身に付ける必要があると感じ大学院生になる決意をしました。



私の新たな出発点

応用生命科学専攻博士前期課程
栄養機能学研究室
酒井 曜

私は平成30年3月に食品栄養学科管理栄養士専攻を卒業し、同月の管理栄養士国家試験に合格することができました。四年間の学部生としての勉強は管理栄養士資格取得のため、決められたレールの上で、定められた知識や技術を学ぶという受動的なものでした。その後研究室での卒業研



学部生の時とは違い、大学院生になるとより一層、自分で考え、挑戦する必要性や、後輩を指導する責任感が養われます。まだまだ始まったばかりですが大学院生での生活を有意義なものにするために、これからも一層の努力を惜しまないつもりです。

私は、日本において侵入初期段階である外来生物（テナトウムシ）の研究に日々励んでいます。外来生物といえ、昨年、日本でヒアリが発見され、大きなニュースになりましたよね？このように、外来生物問題は、今では社会問題の一つとなっており、皆さんがよく耳にする「生物多様性」を脅かす、もつとも重要な要因の一つでもあります。しかし、外来生物の脅威が公になってからでは、防除や根絶に多大なコストがかかるだけでなく、根絶自体が難しくなってしまうことがほとんどです。そのため、研究者が外来生物問題の最前線に立ち、外来生物から日本を守ることに大切で、私はまだ大学院生で、研究者としては知識も技術も未熟ですが、外来生物を扱う者としての自覚を誰よりも持ち、侵入初期外来生物の侵略性の評価を目指し、これからの研究に取り組んでいます。

環境管理科学専攻博士前期課程
生態系管理学研究室
池田 隆

私は現在、農学研究科バイオサイエンス専攻の大学院生ですが、大学入学前は生物を選択しておらず、生物についての知識が全くないゼロからのスタートでした。そんな自分でしたが、バイオサイエンス学科の先生方の熱心な指導のおかげで、徐々に生物学に興味を覚え、学部3、4年生時には動物発生工学研究室で卒業研究に取り組むことができました。そして現在、生命情報工学研究室で「植物における亜セレン酸および亜テルル酸特異的還元系の解明」に

あるようでなかった
新感覚の理系雑貨のお店

SCIENTIFIC IDEA

URL : <http://scientific-idea.com>

代表者 東田一希 (農芸化学科 平成6年度卒業)



緑友会名簿訂正 (変更) 届

氏名	卒業学科	年度
所属研究室		
現住所	(〒)	
勤務先	会社名	住所 (〒)

住所等間違っていた、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。
連絡先: 〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

平成29年度近畿大学農学部緑友会事業報告			
月 日	項 目	場 所	
4月11日	運営委員会	第1会議室	
5月16日	終身会費納付書発送 (634通)		
6月10日	幹事会	第1会議室	
	1) 平成28年度事業報告		
	2) 平成28年度決算報告		
	3) 平成29年度事業計画 (案)		
	4) 平成29年度予算 (案)		
8月22日	5) その他		
	終身会費納付書2回目発送 (374通)		
9月5日	在学生名簿調査完了		
9月22日	会報第22号会員へ発送		
9月26日	総会準備委員会	C会議室	
11月1日	最終総会準備委員会	C会議室	
11月3日	第9回 総会・懇親会	208教室・食堂	
平成30年1月12日	終身会費納付書3回目発送 (259通)		
2月9日	終身会費未納者を6学科に通知		
3月6日	委員会	C会議室	
3月20日	緑友会賞 授与		

平成29年度近畿大学農学部緑友会決算			
収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	5,052,275	郵便費	1,365,253
終身会費 (継続5名分)	50,000	印刷複写費	1,460,970
終身会費	4,330,000	会議会合費	63,980
総会祝金 (校友会より)	50,000	人件費	1,041,930
広告掲載料	100,000	緑友会賞	100,000
会報印刷・郵送代の負担金 (学生会より)	287,400	総会関連費	685,192
寄 付 金 (卒業生より)	20,000	雑費	119,799
利 息	47	支出の部計	4,837,124
		次年度繰越金	5,052,598
合 計	9,889,722	合 計	9,889,722

会計幹事 上田茂登子 会計幹事 武田 徹
上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。
平成30年3月31日
監 事 小林 徹
監 事 谷 哲弥

第9回農学部緑友会総会

第9回農学部緑友会総会は、平成29年11月3日（金・祝）12時から農学部208教室で開催された。まず初めに、緑友会会長の松田克礼先生から、以下の挨拶があった（一部抜粋）。

3年に一度の緑友会総会を無事に開催出来たことに對して、卒業生の皆様および参加者に対するお礼を申し上げる。また、今回の総会が皆さんにとつて刺激的で有意義な時間となるよう協力を依頼。特に事業計画案である向こう3年間の活動方針に対してご意見、ご助言を依頼。今後の活動に對するサポートを依頼するとともに、活発な御討論をお願いしたい。

次に、農学部学部長補佐の江口充先生から学部の近況など以下の報告が述べられた（一部抜粋）。

近畿大学農学部は6学科、大学院は5専攻、併せて三千数百名が学んでおり、毎年1学科約120名、食品栄養学科は約80名、大学院も併せて七百数十名が卒業している。世の中に出るまでは大学で一所懸命鍛えているが、世の中に出て大海原をこぎ出してからは、諸先輩方にお会いしていろいろとご指導、ご鞭撻賜



り、学生達は育っている。伸びる大学は同窓会組織が非常にしつかりしている。今後とも、同窓会の皆様からのご指導、ご鞭撻、ご支援をお願いしたい。



ご来賓の村上哲男先生から祝辞を賜った（一部抜粋）。

数日前に46年前の卒業生の同窓会を行った。その際に卒業生から、「就職した当初は近畿大学の名前を出すのが恥ずかしかったが、最近は大手を振って名前を出すことが出来る。それは、名実共に近畿大学が世間に認められる様になったからだ」と言われた。この様な状況になったのは、大学として知名度が上がっているのはもちろんのこと、卒業生も貢献していると感じている。学生の考え方も変わりつつあり、同窓会組織への参加者も少なくなっている。世交代代はするが、農学部を盛り上げるためにも、同窓会組織を活発にして、大学を応援していきたい。自身は最も長く（50年間）大学に従事している。従って、大学が現在に至るまでの過程は全て経験している。卒業生の皆さんも、大学の発展に貢献できるように頑張ってほしい。

この総会では会則第7章22条により当日の出席者（出席者数31名）をもって成立した。また、会則第7章21条により議長は森川敬介氏に委ねられる。議題に入り、第1号議案（事業報告（平成26、28年度）が永田恵里奈庶務幹事より、第2号議案（決算報告（平成26、28年度）が野々村照雄幹事より、第3号議案（会計監査報告（平成26、28年度）が上田茂登子幹事によりそれぞれ行われ、満場一致で承認された。

第4号議案（役員改選）が松田会長から報告があり、今後3年間は現役員および幹事が引き続き運営に携わることが承認された。

第5号議案（新役員代表）が松田会長から学内副会長の森本正則氏、学外副会長の西原孝氏が紹介され、引き続きご協力をお願いする旨の挨拶があった。

第6号議案（事業計画案（平成26、28年度））が永田恵里奈庶務幹事、第7号議案（予算案（平成26、28年度））が武田徹会計幹事よりそれぞれ配布資料およびパワーポイントを参考に説明が行われ、それぞれ満場一致で承認された。

松田克礼会長から以下の部会長（学科長）の紹介があった。

飯嶋 盛雄 教授（白楊会）、多田 稔 教授（耕水会）、板倉 修司 教授（朝陽会）、上嶋 繁 教授（食彩会）、松野 裕 教授（青山会）、川崎 努 教授（A・B・I・S会）

森川議長の議長解散宣言があり、12:35に総会を閉会し、行われ、満場一致で承認された。

（文責 田茂井政宏）

近畿大学農学部60周年

近畿大学農学部は、お蔭様で60周年を迎えることとなりました。これもひとえに皆様方の熱意と愛情の賜物と心より感謝いたしております。卒業生の方々に60周年に寄せてご寄稿をいただきました。

60周年を迎えて

名譽教授 杉本 毅

私が着任した1971年（昭和46年）は学部創立13年目と日が浅くて施設、設備に恵まれず、研究室は狭くて、暗くて、埃っぽくて、おまけに周囲が騒々しくて・・・と言った具合でしたが、キャンパスには人情味が感じられました。その後高度経済成長を背景に受験生急増期を迎えて次第に教育研究環境が整い、お蔭さまで個人的には後日学会賞を受賞できました。2000年（平成12年）から学部長を務めた4年間は、正に疾風怒濤の時代でした。少子化時代の到来を受けて本学でも学生定員割れが懸念された時代で、受験生確保のため教職員は東奔西走と忙殺されました。併せて、「大学改革」という社会要請にこたえて「教育システム改革」に、さらには学部体制強化のため現在の6学科体制への「学部改組」に取り組みしました。何れも当時の私たちには未経験なテーマで、変革への不安も手伝って多少の軋轢はやむを得ないことでしたが、皆さんの睿智と忍耐のおかげで本学部の歴史に新たなページを刻むことができました。私儀2016年春の叙勲において瑞宝中綬章を受勲しましたが、緑友会会員はじめ学内外の皆さんの多岐にわたるご支援、ご鞭撻の賜物と感謝しています。本学部と緑友会の益々の発展を祈念しています。

学部創設60周年に寄せて

農芸化学科（昭和43年度卒業）
名譽教授 寺下 隆夫

農学部創設60周年誠にありがとうございます。退職して丸6年になりましたが母校の情報がテレビや新聞で連日のように報道され、活気に溢れた今日の発展を大変嬉しく感じています。農学部50周年記念行事の際は責任者の一人として、私も「シェラトン都ホテル大阪」で開催された式典での総合同会を務めさせていただきました。経つ時の早さを感じている次第です。私は1965年に農学部に入學し卒業後も農学部教員として2012年3月まで、教育と研究の46年間を送らせていただきました。この間、健康で無事に過ごさせていただき、大学、私の両親と家族、並びに農学部で特に指導を受け今は故人となられた飯塚義富先生、河野又四先生、獅山慈孝先生に改めて感謝申し上げます。農学部創設70周年、100周年に向けて近畿大学農学部の更なるご発展を祈念申し上げます。

夫先生で、その時丁寧に私の

質問に答えてくださった事が今も印象に残っています。その後、学科教員として農学部への勤務が出来、私共の研究室に進学された先生の娘さんの修論研究のお手伝いや、松山へのゼミ旅行も楽しく過ごすることが出来、2014年（平成26年）に定年退職しました。

今も時々美味しい魚料理とお酒の飲み会のお誘いや先生ご夫妻との食事会を楽しんでいます。

緑友会の会報第一報発行や緑友会会長としてもご尽力され、農学部の発展と共に歩んでこられた先生の「丁寧な教鞭」と「和」の精神をお手本にして、これからも人生を過ごしてゆきたいと思っています。

農学部と緑友会の皆様の益々の発展を祈念致します。

梅田スカイビル新里山「花と蝶の庭」製作に関わって
農学科（昭和51年度卒業）
中村 和幸

2006年7月、梅田スカイビルに新里山がオープンした。この場所に当初計画になかった『花と蝶の庭』を造っていただいた。

私が当初勤務していた大阪府立城山高等学校園芸科ではバタフライガーデンに植栽していた。

閉校を目前に控え、これらの苗の行き先に困り果てていた。積水ハウスにこれらの苗を

使ってほしいという手紙を書いた。この申し出に賛同していただき、『花と蝶の庭』が誕生した。

バタフライガーデンに用いる野生植物は園芸植物と異なり、栽培が難しい。ただ、植物生理学研究室で学んだ野生植物の生理・生態に関する知識や技術を活用し、様々な植物を栽培できたことが、花と蝶の庭につながっている。

これからもバタフライガーデンの普及に向け、がんばっていききたいと考えている。

不肖の学生である私を浜田良三先生は、あたたかく導いていただいた、いままんな想いが、大きく膨らんでいます。すばらしい校風である近畿大学農学部が還暦を迎えられるにあたり、益々のご発展をご祈念するとともに、これからもたくさんの人を育てる人間栽培学部であってほしいと願っております。

60周年記念

農芸化学科（平成13年度卒業）
尾崎 信源

近畿大学農学部60周年を心よりお祝い申し上げます。私は1998年4月に農芸化学科へ入學しました。微生物に興味を持っていたため、配属は応用微生物学研究室を希望し、藤田藤樹先生、岸本憲明先生に指導をいただきました。恵まれた環境の中で研究を行い、最後は博士も取得させていただきました。また、入学してすぐに園芸研究会の勧誘を受けた私は、軽い気持ちで入会しましたが、引退をする3年生の学園祭まで、ゆかいな仲間たちと活動を共にし、今でも良き仲間として関係は続いています。農学部で過ごした9年間で、研究室やクラブを通して多くの先輩、後輩と出会えたことや、振り返れば本当にバカバカしいと思えない経験をしたことが、今では宝であり、自分の一部になっていると感じます。そのような場を農学部でいただいたことに感謝しています。大学院修了後いくつかの職を経て、現在は大阪で分析化学を教える専門学校の専任講師として教壇に立っています。

近畿大学農学部60周年に寄せて

水産学科（平成21年度卒業）
島田 政之

農学部設立60周年、誠にありがとうございます！私が卒業して約10年、その間にも私が学生時代熱望していた体育館が完成し、キャンパス内にコンビニエンスストアができたりと、今の学生たちを大変うらやましく思う気持ちと同時に、様々なメディアに毎日のように取り上げられ、卒業生として母校が革新を続けていること大変うれしく思っております。今後ますますの農学部のご発展をお祈り申し上げますとともに、卒業生の一人として農学部の発展に貢献できればと思います。

次は近畿大学発、水族館の設立でしょうか（笑）